利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟

64 な支援により、安心して暮らせている

(参考項目:30)

## 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号 4091100034							
	法人名	法人名 株式会社 サニーライフ					
	事業所名	グループホーム 柳河内 (Bユニット)					
	所在地	〒815-0063 福岡県福岡市南区柳	河内2丁目6番57号	Tel 092-562-3007			
	自己評価作成日	平成30年06月01日	評価結果確定日	平成30年7月27日			

## ※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会	
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	Tel 093-582-0294
訪問調査日	平成30年07月12日	

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「くつろぎの中で、ゆったり楽しく、その人らしく」を理念に、入居者様が自発的に生活ができるような支援を心がけている。入居者様の生活の中で、その方の出来る能力に合わせ役割を持っていただき、自立支援に向けて取り組んでいる。また、担当者やケアマネージャーを中心に、日常生活上での身体機能の訓練やケアプランを立案し、日々の生活の中に取り入れることで、その方の生きがいに繋げるなど、身体機能の維持や向上、安心安全な生活の確保を目指している。入居者様に余生を楽しんで頂けるような事業所作りを目指し、スタッフを始め、ご家族、地域の方々とも協力し合いながら、社会参加へも繋げている。今年度よりホーム長が変更になる為、入居者様の生活に今後も支障がないように引き継ぎを強化し、関係性の構築にも力を入れている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
	項目		取 り 組 み の 成 果 るものに〇印		項 目	↓該当	取り組みの成果 当するものに〇印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向 を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	O 2.	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	0	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
9	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 がある (参考項目:20.40)	O 2. 3.	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が 訪ねて来ている (参考項目:2,22)	0	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
0	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	O 2.	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	0	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	1. O 2. 3.	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	0	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
2	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	O 2.	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	0	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目:32.33)	O 2.	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	0	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
	利用者は その時々の状況や悪望に広じた柔軟・	1.	ほぼ全ての利用者が				-

2. 利用者の2/3くらいが

3. 利用者の1/3くらいが

4. ほとんどいない

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自	外		自己評価	外部評価	
三	外部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
[ .理	E念に	- - -基づく運営			
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理 念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有し て実践につなげている	「寛ぎの中で、ゆったり楽しく、その人らしく」を理念としている。毎朝申し送りの時に、理念、年間月間目標を復唱することで、意識づけを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	地域の公民館や老人いこいの家など連携を取りながら、地域の活動にも参加をしている。また地域の活動にも積極的に参加するように努めている。(地域の活動:災害訓練、清掃活動、廃品回収、餅つき、ふれあいサロンなど)		
3		〇事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	地域のふれあいサロンでの交流や運営推進会議を通して、活動の報告(説明や写真のスライドショー)や地域の方々との交流を深めて理解をしていただいている。		
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かし ている	運営推進会議では入居者の生活状況(入居者数、 要介護状況、入退去、入退院状況)、事故報告、身 体拘束廃止など報告し、意見を求め、サービスの向 上に向けて取り組んでいる。		
5	4	〇市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んでい る	運営基準や困難事例など発生した場合には保険者 に相談し、適切な対応や連携に努めている。		
6	5	ける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理	福岡県身体拘束0宣言を実施している。また福岡市やグループホーム協議会などの身体拘束廃止に向けた研修にも積極的に職員が交代で参加し、内部研修にて情報の共有をしている。玄関は常時施錠し、センサーなどうまく利用しながら、安全の確保と事故防止に努めている。		
7		いて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内	高齢者虐待防止の外部研修にも職員が交代で参加しながら、内部研修を行い、情報の共有を図っている。管理者は職員とコミュニケーションや面談を行い、ストレスチェックや実情の把握、ストレスケアに努めている。入居者の心身の状態の把握にも力を入れて把握に努めている。		

自	外	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	自己評価	外部評価	
己	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	〇権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必 要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよ う支援している	権利擁護に関する外部研修にも職員交代しながら 積極的に参加して、内部研修を実施し、情報の共有 を図っている。また成年後見人制度も内部研修を行 い、理解を深め、利用されている方は関係者とも連 携を図り、必要な方は活用できるように支援してい る。		
9		や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を 行い理解・納得を図っている	契約に関しては、利用前より入居に至るまでの流れや面談などを入れながら説明し、重要事項・契約書の説明は場所を設けて十分に説明を行い同意を頂き、契約の実施している。その他入居者やご家族から不安や疑問があれば都度説明を行い対応している。また、法改正による利用料金や単位数、加算関係の変更については、改めて書面にて説明を行い同意を頂いている。		
10		○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員 ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを 運営に反映させている	運営推進会議を通してご家族の方からの意見や要望を頂いて運営に反映させている。意見箱を設置しているが意見書の投函はなく、面会の際に要望や意見があれば都度伺い、対応を行っている。また年2回家族会を行い、事業所活動の理解や意見交換、親睦を深めている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見 や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議やスタッフ会議を定期的に開催し、現場からの意見や提案を聞く機会を設けている。また個別面談や相談など随時行い、意見や提案の内容によっては管理者会議などでも取り上げて、運営に反映させている。		
12		務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい	人事考課を行い、自己評価、管理者評価を定期的に行っている。必要があれば待遇面の向上を進言している。働きやすい職場環境づくりの為、労働時間内での業務や有給休暇の消化、業務の改善や環境面での整備などを行い離職防止に努めている。		
13		あたっては性別や年齢等を理由に採用対象から  排除しないようにしている。また、事業所で働く職  員についても、その能力を発揮して生き生きとして	職員採用に関しての性別、年齢等を理由に採用対象から排除する事はない。採用に関してはその方の希望する勤務日数や労働時間等を面接で伺った中で検討し、採用に繋げている。事業所で働く職員についても、年齢や体力、持病など個々の状態や状況にも応じながら、その方が働きやすい形態での勤務に繋げている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を 尊重するために、職員等に対する人権教育、啓 発活動に取り組んでいる	スタッフ会議や内部研修を通して、入居者の人権の 尊重についての教育を行っている。「自分だったら」 に置き換えて相手の立場に立ってケアする事を指 導している。また、理念や年間月間目標を申し送り 時に読み上げ、意識を持てるように取り組んでい る。		

自	外	-= -	自己評価	外部評価	
	外 部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		〇職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が交代で、外部研修に参加してスキルアップを 図ったり、内部の研修では担当者に資料作成や発 表をすることで、スキルアップに繋げている。		
16		会を作り、ネットリークつくりや剋強会、相互訪問	法人内の3事業所合同勉強会や管理者会議などで 交流を通じて向上を図ったり、地域の事業所交流会 やグループホーム協議会の交流にも参加するなど 連携を図っている。		
Ⅱ.安/	心と	信頼に向けた関係づくりと支援			
17		〇初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人 の安心を確保するための関係づくりに努めてい る	入居前に状態確認や自宅訪問などで回数を重ねることで顔見知りの関係作りを行い、不安解消に努めている。入居の際は自宅の環境に近い部屋作りを家族と一緒に行っている。初期は不安や落ち着かない事などが予想される為、時間をかけながら解消に努めている。		
18		〇初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困ってい ること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関 係づくりに努めている	利用前から面談を重ね、入居後の生活支援、利用料金面や急変時の対応、その他ご家族の心配事など親身に受け答えをする事で信頼関係の構築を目指している。		
19		〇初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	サービスの開始にあたっては、今までの生活の環境に近い対応での支援を目指し、暫定プランを作成しサービスの実施を行っている。その後本人様のニーズや実情等を検討し、必要時はサービスの内容を変更・調整するなど、柔軟に対応を行っている。		
20			「その方らしさ」を大切に、入居者様個々人の能力 や生き様などを尊重しながら、今の暮らしの中で出 来る事を支援したり、日々の日課や大切にしてきた 事などを模索したり、引き出したりすることで、「その 方を知る」事に繋がり、本当の家族のような存在で 支援する事を目標理念に掲げている。		
21		〇本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人 を支えていく関係を築いている	事業所内だけで支えるのではなく、ご家族も一緒に支える事を大切にしています。日頃の状態の報告は、面会時にお話ししたり、月に1度お便りを送り、様子をお知らせしている。病院受診はご家族が主で動き、家族受診が難しい場合は家族に代わって受診をし、受診結果をお伝えしながら情報の共有を行っている。		

自	外		自己評価	外部評価	
己	外部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めてい る	家族との関係を大切に、面会に来ていただけるようにしている。また外出の機会を設けて、買い物やドライブ、馴染みの店などへお連れするなど支援している。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立 せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性に配慮しながら、座席などを 設けている。また、入居者同士コミュニケーションや レクリエーションを楽しんで頂けるように職員が仲介 に入り、支援を行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの 関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家 族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人の状態確認や面会に伺っている。また、移動 後、当事業所へ本人の生活状況の確認などの連絡 や相談があれば随時お答えしている。		
Ш	その)				
25		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把 握に努めている。困難な場合は、本人本位に検 討している	アセスメントや日常生活上の希望や意向の把握に 努めている。スタッフ会議でも本人様の希望や要望、困難な事など検討し、実施に向けて取り組んでいる。		
26		〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活 環境、これまでのサービス利用の経過等の把握 に努めている	利用開始に向けて、現状の様子を聞き取るなど、ご本人やご家族と面談の機会を作り、状態の収集を行っている。その中でご本人の嗜好や大切にされてきたことなどを伺い、サービスに繋げている。		
27		万寺の現状の把握に劣めている	主治医の意見書や現在の介護状況を踏まえて支援にあたっている。日常の様子は申し送りなどで職員間での共有を図り、スタッフ会議で状況の把握と支援の統一を図っている。		
28		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合 い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状 に即した介護計画を作成している	担当者やケアマネージャーが入居者やご家族から アセスメントを行い、その方のニーズに合わせて、 ケアプランを作成し、サービスの提供を行っている。 また、定期的にモニタリングを行い、その方の状態 に合わせて支援している。		

自	外	-= D	自己評価	外部評価	
自己	外部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫 を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しな がら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を介護記録に記載しているが、内容が 薄かったり、介護者側の主観が強い時もある。特変 のある方などの記録は、PCで申し送りとして統一 し、確認し周知徹底を図っている。		
30		〇一人ひとりを支えるための事業所の多機能化本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
31		〇地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握 し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊か な暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方を招いて音楽会や、地域のふれあいサロンなどを利用しながら、参加して頂いているが、地域での活動では入居者が交代で参加できるように配慮している。		
32		得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築	ホームドクター(かかりつけ医)を中心に、必要に応じて地域の専門医や総合病院に繋いで頂いている。また、個別に受診の支援なども行い、都度情報をかかりつけ医に報告するなど関係性を築き、ご家族へも連絡やお便りにて情報を共有している。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や 気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝 えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護 を受けられるように支援している			
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよう に、又、できるだけ早期に退院できるように、病 院関係者との情報交換や相談に努めている。あ るいは、そうした場合に備えて病院関係者との関 係づくりを行っている。	ホームドクターに連絡後、状況に応じて緊急搬送や 受診などを行い、医療機関との連携を図っている。 入退院に関しては医療機関連携室と連絡を取りな がら、早期退院を目指せるように情報交換を行って いる。		
35		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早 い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業 所でできることを十分に説明しながら方針を共有 し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組 んでいる	入居時、状態悪化時に重度化した時の対応やターミナルケアについて、グループホームでの方針や援助内容などを説明し、入居者やご家族の希望を聞きながら、同意を得ている。また、重度化や終末期に向けた対応が出来るように研修等への参加を行っている。		

自	外	-= -	自己評価	外部評価	
E	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職 員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行 い、実践力を身に付けている	緊急時の事故発生マニュアルを作成している。ス タッフには定期的に緊急時の対応訓練を実施して いる。		
37		〇災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を全職員が身につける とともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を中心に定期的に防火訓練を行っている。また、非常食や飲料水、緊急時の持ち出し物などを準備している。地震、水害時の地域との協力体制については運営推進会議で議題に挙げ組織づくりを進めている。		
IV.	そのノ	- \らしい暮らしを続けるための日々の支援			
38		〇一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシー を損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの尊重を心がけながら、日々の業務にあたっており、職員も毎朝理念を読み上げ、意識づけを行っている。また、その方のプライバシーへの配慮にも心掛け、職員同士が気付いた時には声を掛け合いながら配慮に努めている。内部研修などでも議題にあげなど、尊厳とプライバシーの配慮に努めている。		
39		〇利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、 自己決定できるように働きかけている	入居者からの希望やご家族から本人が以前から大切にされてきた事や嗜好の希望を頂けるように、日頃から、家族との関係性に力を入れている。希望に沿って提供できるか検討を行いながら、業務の中に組み込めるのかなど前向きに取り組んでいる。		
40		〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのその人らしい生活に合わせて 支援していくのが理想ではあるが、職員の勤務や業 務に合わせてのサービスの提供になっている部分 もある。先々、本人の過去の生活スタイルに沿って 業務を合われるような支援が出来るように検討して いる。		
41		〇身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	身だしなみが整えられるように、ご家族には本人専用の櫛やドライヤー、鏡、化粧道具など物品の持ち込みなどに関しては制限をしていない。ご自分で出来ない方には整容介助は行っている。おしゃれに関しても現に貴金属やアクセサリーなど自己管理で装着されている方もいる。外出の時には好みの帽子をかぶられる事で、気持ちも明るくなられている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に 準備や食事、片付けをしている	入居時に嗜好調査を行い、入居者が好む食事の提供に努めている。 食事の準備については、衛生面に留意しながら調理補助やつぎ分け、後片付けなどをスタッフと協働で行っている。		

自	外		自己評価	外部評価	
三	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態やカ、習慣 に応じた支援をしている	業者ベースの献立をもとに、調理担当スタッフが個々に食材や味付けなどを工夫をして、日ごとに入居者の食欲が出やすいような食事を提供している。例)みそ汁は具材を5種類入れる等水分については、嚥下状態によりトロミや飲みやすい自助具の検討を行っている。		
44		〇口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。協力歯科医院の往診は毎週行われており、スタッフは定期的に歯科医の助言を受けながら、口腔ケアの技術向上に取り組んでいる。 義歯使用者は毎晩預かり、義歯消毒剤での消毒支援を行っている。		
45		りの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイ	排泄パターンの把握や排泄状況の観察の為、記録を行っている。失禁のある方は定時での誘導を行うなどして清潔を保っている。訴えがある場合は都度誘導を行い対応している。その方にあった排泄用品の見直しも定期的に検討の課題がある。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工 夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に 取り組んでいる			
47		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を 決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	原則週2回の入浴を行っている。 曜日固定で入浴を実施しているが、その日の体調 や入居者の希望に応じて入浴日はフレキシブルに 対応している。 尿便失禁や入居者の希望が強い場合は、可能な範 囲で週3回の入浴も実施している。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している			
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、 用法や用量について理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めている	定期処方の内容については、薬剤師からの助言を 受けるなどし、薬の説明書や申し送りでスタッフに周 知徹底を図っている。 入居者に症状の変化があれば、往診時に担当のス タッフからドクターへ説明し、内服薬の調整の支援 を行っている。		

自	外	- <del>-</del>	自己評価	外部評価	
巨	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		〇役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者同士の性格や認知症の周辺症状に合わせてホール内でのテーブル配置に配慮をしている。 日中の過ごし方についても、生活歴や嗜好に配慮したレクリエーションや個別のアクティビティの提供を行っている。		
51		うに支援している	天気が良い日は、玄関前での日光浴や近所の散歩を随時行っている。また、ドライブなどの外出行事を取り入れ地域との交流の機会を図っている。 家族の希望で外出・外食する際などは、自宅や店舗などへの送迎サービスを行い交流の機会を支援している。		
52		〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解し ており、一人ひとりの希望やカに応じて、お金を 所持したり使えるように支援している	金銭の所持についてはトラブル防止の為、原則的には預かり金として事業所管理としている。自己管理が可能な方は少額で家族へお願いし、所持を認めている。買い物や外食の際は職員が支払いなどの確認も行いながら、管理している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手 紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があればお繋ぎしている。また、携帯電話を持ち込まれている方もおられる。手紙が事業所の入居者宛にも来るので、必要に応じてハガキや年賀状、手紙など支援し、投函している。		
54		ねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がな	リビングの他に玄関や廊下、その他共有スペース に対し、季節ごとの飾り付けや展示品を配置する事で、入居者が季節感を感じ、落ち着ける空間づくり に配慮している。 また、空調や室温、湿度、採光などにも日々気を 配っている。		
55		〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の 工夫をしている	入居者同士の相性や関係性もある為、テーブルの配置に工夫したり、過ごしやすい環境を提供している。また、フロアで過ごされる時も、退屈されないようにテレビや音楽、パズルや新聞などお好きな時間を過ごせるように提供している。		
56		〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相 談しながら、使い慣れたものや好みのものを活 かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫を している	居室づくりはご家族にも協力を頂きながら、ご本人らしい部屋作りを行っている。入居者によっては、家具がある事での危険性や、異食行為がある方の配慮の面から、その方に応じた居室作りを行っている。		
57		〇一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生 活が送れるように工夫している	事業所内バリアフリーになっており、安全に生活できるように環境を整えている。入居者一人ひとりの能力に応じて自立支援に向けての生活が送れるように取り組んでいる。		